

国語

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートでは、「この教科に力を入れて勉強したい」、「この教科の授業を、まじめに受けている」など意欲的に取り組んでいる生徒が多いことが読みとれた。 朝読書の取り組みにも熱心な生徒が多く、読書に関しては授業を通して発展させていきたい。 書くことに関してはノート、ワークシートなど熱心に取り組んでいるが、丁寧さに欠け、誤字脱字が多い生徒もみられる。言語の知識の定着が課題である。また、作文などの長文を書くことについては、文章構成や語彙力を身に付けさせることが課題である。 文章を読み取り、理解するという能力はあるが、そこから自分の意見や考え方に結びつけ、発表するという能力が身につけていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標を明確にすることで、何を学ぶかを理解させ、生徒の自己評価力を高める。 漢字ワークの取り組みと漢字テストを継続して行い、学習を習慣づける。 日常生活の中で、様々な事柄に興味をもち、追求していこうとする意欲をもたせる工夫をする。 生徒の活動内容をよくほめ、自分が成長したと思える場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞などのニュース記事から身近な出来事に目を向かせるよう、常に適切な副教材を準備し、それについて自分の考えを発表するような場面を設定する。 辞書の活用に習慣化し、語句の意味、使い方、イメージなどをその度に確かめていく活動を徹底させる。 語彙を増やすため「国語便覧」や辞書等を活用し、四字熟語やことわざなどを身につけさせる。 文法の学習では、一つの単元を連続した時間で学習し、前単元の復習からくり返して問題演習を多く取り入れ、基礎力の定着を目指す。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する関心・意欲は高く、授業アンケートによると「この教科に力を入れて勉強したい」「まじめに授業を受けている」という生徒の割合は8～9割に達している。しかし、「この教科は得意だ」と感じている生徒の割合は低く、授業の課題や到達度試験の記述式の問題等への取り組みをみても、どこから取り組んだらいいのか迷っている場面が多い。文章の読解や構成についての学習が今後さらに必要である。 自分の意見を伝える力や方法がわからず戸惑う場面がある。意見をわかりやすくまとめて「話す」ことや、文章にまとめて「書く」力を向上させることが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を読み取るために、語句の意味を捉え文のつながりに気をつけて読む習慣をつけさせる。また、説明的文章では事実と意見を読み分けたり、物語では登場人物の感情を読み取ったりと、さまざまなジャンルの文章に触れ、文章の核となる部分を探し出す練習をくり返し行う。 スピーチやディベートなど人前で話す機会を増やし、グループでのフィードバックを行うことで、相手に伝わりやすい話し方を工夫させる。 説明的文章の基本的な型を学ぶことで、文章構成を工夫しながら書く練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章や物語等で読みとった情報をもとに自分の意見をもてるよう、そのための補助教材を提示する。 語彙を増やすため「国語便覧」や辞書等を活用し、四字熟語やことわざなどを身につけさせる。 漢字練習ノートを使用し、漢字の反復練習を行えるようにする。また、到達度試験や学期の始め等で、必ず練習状況を確認する。 文法の学習では、一つの単元を連続した時間で学習し、前単元の復習からくり返して問題演習を多く取り入れ、基礎力の定着を目指す。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> 現状は、教師の範読や他者の発言を静かに聞くことや発問に対して、積極的に発言したり指名を受けて板書したりして答えることができる生徒が多い。 しかし、中には、小学校や中学1・2年生の内容から復習する必要がある生徒もいる。 1学期末の授業アンケートから、約9割の生徒が「授業をまじめに受けている。」「前向きに参加している。」「忘れ物をしない。」と答えているが、「この教科は、得意だ。」と答えている生徒が、約7割しかいない。 国語は、他の教科の基礎・基本となる教科でもあるので、授業を通して、他の場で活用することができる国語力を身に付けられる授業を展開する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の学び合いのできる時間を増やす。授業後の感想等で生徒の声を聞くと、自分自身で工夫して音読したり、互いの作品を読み合ったり、発表を聞いたりする時間に楽しさを感じるようである。教師が説明するばかりの授業ではなく、互いに学び合うことのできる授業を展開するために交流の時間を増やす。 学力差に応じた発問内容を考える。基礎・基本の問題から発展的な問題まで用意し、退屈にならないような授業づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、端的でかりやすい目標を板書して明示する。 発問の仕方や答えさせ方を工夫する。基礎・基本となる問題作りから発展的な問題作りを丁寧に行う。また、挙手して発言する答え方ばかりではなく、指名して発言や板書をさせたり、座席の通り順々に答えさせるなど、わかる人だけが答えられるということにならないように配慮する。 生徒同士の学び合いの時間を増やす。教師の説明ばかりを聞く授業にならないように、交流の時間を増やすことで互いに学び合うことのできる授業を展開する。 	

社会

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<p>・学習指導の現状は、全クラスで生徒は、良く板書内容をノートに写し、意欲的に授業に取り組んでいる。</p> <p>・課題としては、本年度の一年生は入学時から「社会科は苦手な教科だ」と考えている生徒が多い学年であり、今後、社会科に対する興味・関心を高める授業展開が必要であると考ええる。</p>	<p>・まず、生徒一人一人の社会科に対する興味・関心を高めるため、社会科の教材研究と研修に積極的に取り組み、日々の授業の中で、生徒が興味・関心を高めるように、歴史においては歴史上の人物や、歴史的出来事に関するエピソードなどを、地理においては日本の各地域のエピソードなどをより豊富に話して聞かせることができるように研修を深める。</p> <p>・到達度試験では、中学校で習得すべき社会科の基礎基本的内容を幅広く出題し、生徒一人一人が学習を進めるにあたり、基礎基本的な内容をもれなく学習するように喚起する。</p>	<p>・生徒一人一人の社会科に対する興味・関心を高めるため、教材研究と研修に積極的に取り組み、日々の授業の中で、生徒が興味・関心を高めるように歴史においては歴史上の人物や、歴史的出来事に関するエピソードなどを、地理においては日本の各地域のエピソードなどをより豊富に話して聞かせることができるように研究と研修を深める。</p> <p>・日々の授業においては、社会科の資料活用能力を向上させるため、教科書や資料集の資料を活用するとともに、板書で図を示すなどの工夫を行い、生徒一人一人の資料活用能力の向上に努める。</p>	
2年	<p>・学習指導の現状は、全クラスで生徒は、良く板書内容をノートに写し、意欲的に授業に取り組んでいる。</p> <p>・課題としては、本年度の二年生は一年次において、社会科に対する興味・関心がだいぶ高まってきたが、入学時には社会科に対する関心・意欲の低い生徒が多かった学年であり、今後も社会科に対する興味・関心を高める授業展開が必要であると考ええる。また、社会科の基礎基本がまだ不十分な生徒がいて、基礎的事項を一つ一つ丁寧に学習させる必要がある。</p>	<p>・まず、生徒一人一人の社会科に対する興味・関心を高めるため、社会科の教材研究と研修に積極的に取り組み、日々の授業の中で、生徒が興味・関心を高めるように、歴史においては歴史上の人物や、歴史的出来事に関するエピソードなどを、地理においては日本の各地域のエピソードなどをより豊富に話して聞かせることができるように研修を深める。</p> <p>・到達度試験では、中学校で習得すべき社会科の基礎基本的内容を幅広く出題し、生徒一人一人が学習を進めるにあたり、基礎基本的な内容をもれなく学習するように喚起する。</p>	<p>・生徒一人一人の社会科に対する興味・関心を高めるため、教材研究と研修に積極的に取り組み、日々の授業の中で、生徒が興味・関心を高めるように歴史においては歴史上の人物や、歴史的出来事に関するエピソードなどを、地理においては日本の各地域のエピソードなどをより豊富に話して聞かせることができるように研究と研修を深める。</p> <p>・日々の授業においては、社会科の資料活用能力を向上させるため、教科書や資料集の資料を活用するとともに、板書で図を示すなどの工夫を行い、生徒一人一人の資料活用能力の向上に努める。</p>	<p>・生徒一人一人の社会科に対する興味・関心を高めるため、教材研究と研修に積極的に取り組み、日々の授業の中で、生徒が興味・関心を高めるように歴史においては歴史上の人物や、歴史的出来事に関するエピソードなどを、地理においては日本の各地域のエピソードなどをより豊富に話して聞かせることができるように研究と研修を深めることができた。今後も、社会科の教材研究はまだ進める余地があるので、一層の研究・研修に努めたい。</p> <p>・日々の授業においては、社会科の資料活用能力を向上させるため、教科書や資料集の資料を活用するとともに、板書で図を示すなどの工夫を行い、生徒一人一人の資料活用能力の向上に努めることができた。</p>
3年	<p>・学習指導の現状は、全クラスで生徒は、良く板書内容をノートに写し、意欲的に授業に取り組んでいる。</p> <p>・課題としては、本年度の三年生は入学時と比べて、社会科に対する興味・関心がだいぶ高まってきたが、入学時には社会科に対する関心・意欲の低い生徒が多かった学年であり、今後も社会科に対する興味・関心をさらに高める授業展開が必要であると考ええる。また、社会科の基礎基本がまだ不十分な生徒がいて、基礎的事項を一つ一つ丁寧に学習させる必要がある。</p>	<p>・まず、生徒一人一人の社会科に対する興味・関心を高めるため、社会科の教材研究と研修に積極的に取り組み、日々の授業の中で、生徒が興味・関心を高めるように、歴史においては歴史上の人物や、歴史的出来事に関するエピソードなどを、地理においては日本の各地域のエピソードなどをより豊富に話して聞かせることができるように研修を深める。</p> <p>・到達度試験では、中学校で習得すべき社会科の基礎基本的内容を幅広く出題し、生徒一人一人が学習を進めるにあたり、基礎基本的な内容をもれなく学習するように喚起する。</p>	<p>・生徒一人一人の社会科に対する興味・関心を高めるため、教材研究と研修に積極的に取り組み、日々の授業の中で、生徒が興味・関心を高めるように歴史においては歴史上の人物や、歴史的出来事に関するエピソードなどを、地理においては日本の各地域のエピソードなどをより豊富に話して聞かせることができるように研究と研修を深める。</p> <p>・日々の授業においては、社会科の資料活用能力を向上させるため、教科書や資料集の資料を活用するとともに、板書で図を示すなどの工夫を行い、生徒一人一人の資料活用能力の向上に努める。</p>	

数学

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<p>・授業アンケート結果より 「この教科は、得意だ」「この教科は、好きだ」に肯定的な回答をした生徒よりも「この教科に、力を入れて勉強したい」について肯定的な回答をした生徒の割合が上回る結果だった。このことから「数学は得意ではないが、がんばりたい」と感じている生徒が多いことが読み取れる。 「教材(プリント・ビデオ・資料集など)を授業にうまく活かしている」の項目に肯定的な回答が少なかったことから、生徒の興味・関心を掻き立てる指導の工夫を研究する必要があると感じている。</p> <p>・習熟度別授業について 2クラス3展開(7組は1クラス2展開)の習熟度別授業を実施しており、生徒の習熟度に合った、個に応じた指導ができています。更に充実するよう、教員間の連携と教材研究が課題である。</p> <p>・学力の基礎・基本の向上 学力の基礎・基本の定着を図る授業ができています。今後、学習内容が深まるとともに、さらに学力の基礎・基本の定着の徹底が必要になると考えられる。</p>	<p>・ICT機器や教具を活用し、生徒の興味・関心をさらに掻き立てる授業の工夫を研究し、実践する。生徒が主体的に学習するために、習熟度に合った問題解決型の授業を展開し、学び合いの場を設け、言語活動も充実させる。</p> <p>・教員間の連携を密にし、生徒情報の共有、教材の共有を行い、生徒の学びに還元する。日々の授業の中で、生徒の習熟度を把握し、教員間で共有することで、個に応じた細やかな学習支援を実現する。</p> <p>・学力の基礎・基本を定着させた上で問題解決型の授業の展開、言語活動の充実を図る。</p>	<p>・毎回の授業で家庭学習用の宿題を課し、その日の授業はその日のうちに振り替える習慣をつけさせる。また、宿題の取り組みの様子など、教員間で情報を共有し、指導に活かす。</p> <p>・生徒の習熟度に応じてワークや補充プリントを活用し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・授業アンケートで、数学に対する意欲が高いことがわかった。生徒の要望に応じて、到達度試験前の補習教室を実施する。</p>	
2年	<p>・授業アンケート結果より 「この教科は、得意だ」「この教科は、好きだ」に肯定的な回答をした生徒よりも「この教科に、力を入れて勉強したい」について肯定的な回答をした生徒の割合が上回る結果だった。このことから「数学は得意ではないが、がんばりたい」と感じている生徒が多いことが読み取れる。 「教材(プリント・ビデオ・資料集など)を授業にうまく活かしている」の項目に肯定的な回答が少なかったことから、生徒の興味・関心を掻き立てる指導の工夫を研究する必要があると感じている。</p> <p>・習熟度別授業について 2クラス3展開の習熟度別授業を実施しており、生徒の習熟度に合った、個に応じた指導ができています。更に充実するよう、教員間の連携と教材研究が課題である。</p> <p>・到達度試験の結果から、基礎的基本的学力の定着を図ることができています。今後学習する単元でも定着を図るため、基礎的基本的な内容に対して積極的に取り組む必要がある。</p>	<p>・生徒の興味関心をもたせるため、効果的な教材の工夫、生活経験に即した問題の提供を行う。生徒が主体的に学習するために、習熟度に合った問題解決型の授業を展開し、学び合いの場を設け、言語活動も充実させる。</p> <p>・教員間の連携を密にし、生徒情報の共有、教材の共有を行い、生徒の学びに還元する。日々の授業の中で、生徒の習熟度を把握し、教員間で共有することで、個に応じた細やかな学習支援を実現する。</p> <p>・日々の授業内容の復習から学力の基礎・基本を定着させ、問題に積極的に取り組む姿勢をつくる。</p>	<p>・単元終了時に、各章のふり返しを行う。また、少数人数習熟度別授業の指導方法を研究する。</p> <p>・学習のノートや発展プリントなどの教材を生かし、日々の復習を習慣化させ学力の基礎・基本を定着を図る。、入試などでも頻出する全単元の基本問題に触れる機会をつくるため、「夏休みの宿題」を作成、活用する。</p> <p>・授業アンケートで、数学に対する意欲が高いことがわかった。よって、授業内の机間指導や休み時間を利用して、少しでも多くの生徒に、学力の向上を図る機会を多く設定していく。</p>	
3年	<p><発展> 授業アンケートの結果「この教科は得意だ」と回答した生徒は68.7%と昨年度より12.5%減少した。しかし全ての生徒が「力を入れて勉強したい」と回答しており数学に対する関心と意欲は高い。それを伸ばすために個に応じ、特に発展的な内容を充実させた授業を行う。</p> <p><標準> 授業アンケートの結果「この教科は得意だ」と回答した生徒は56.6%で昨年度より16%増えている。「力を入れて勉強したい」と回答した生徒も84%もいることから、苦手ではあるが、数学に対する関心はあり、さらにできるようになりたいと思っている生徒が多い。基礎基本の定着を図るとともに発展的な内容にも触れられる授業を行う。</p> <p><基礎> 授業アンケートの結果「この教科は得意だ」と回答した生徒は19.4%であった。一方で「力を入れて勉強したい」と回答した生徒は88%であった。発言も多く授業に前向きに取り組んでいる。課題は、基礎基本の定着の徹底と数学に対する苦手意識を減らすことである。</p>	<p><発展> さらに数学に興味をもたせるために、身近な問題の提供や、教材の工夫、指導法を研究する。また、教科書と発展的な内容との時間のバランスを考え、1時間の中でより多くの発展問題に取り組めるような授業をしていく。</p> <p><標準> 教材研究を重ね、段階を踏んで一つ一つ解いていけるような、丁寧な指導をしていく。また、毎回の授業での目標を明確にし、少数人数をいかに個々に応じた授業を行っていく。</p> <p><基礎> 教材研究を重ね、スモールステップを意識した授業展開を行う。また、毎回の授業での目標を明確にし、達成感を感じることができるよう工夫を行っていく。</p>	<p><発展> 教科書の基礎定着かつ発展的な内容をより多く扱う授業を行う。そのために小テストやプリントを活用する。</p> <p><標準> 教員同士の情報交換を密にし、発展・基礎のどちらにも対応できるようにする。小テストやプリントを活用し、個に応じた授業を展開していく。</p> <p><基礎> 基礎基本の定着を徹底し、スパイラル的学習を取り入れていく。</p>	

理科

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に授業態度は良好で意欲のある生徒が多い。 ・実験や観察などは意欲的に取り組むが、実験の考察などの思考力が問われる活動が得意ではない生徒も多い。 ・視聴覚教材や実物の見本を取り入れる事で授業理解が深まる傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して意欲的な態度を養うために、観察・実験の機会を積極的に設ける。 ・理科に対する苦手意識をなくすために、視聴覚教材、ICT教材を取り入れる。また、授業ごとに目標を明示し、授業内に達成度を確認させることで、知識の定着を図る。 ・考察や問題演習など、思考力を高める活動を多く取り入れる。科学的な文章の表現方法についても、例文等を示しながら、記述できるように取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、発展的な例をあげ、様々な理科の現象が、身近に起きていることだと実感させ、興味・関心を引き出す。 ・小学校の理科で学んだ内容の関連を意識しながら取り組む問題を設定し、問題解決能力、思考力を育成する。 ・興味のある分野についての調べ学習を行い、レポートを作成することで、科学的な表現力を養う。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に授業態度は良好で意欲ある生徒が多い。 ・電流計、電圧計の接続、値の読み取りができない生徒が多数であった。 ・理科が好きという生徒が80%を上回っている。理科自体が嫌いではないが、今後は見えないものや、筋道を立てて考える力の育成が課題の1つである。 ・実験や観察などは意欲的に取り組むが、実験の考察などの思考力が問われる活動が得意ではない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、観察などの豊富な体験的学習は授業に臨む積極性を維持するためにも今後も継続して行う。 ・問題演習等も定期的に行い、筆記における基礎知識定着により、ペーパーテスト等による理科に対する苦手意識を克服する。 ・入試問題も解ける学力を保証していけるよう、来年にに向けて入試問題過去問題演習をすすめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「電流と磁界」等の実験において、自ら実験方法、手段を考え、発想力・想像力の向上を引き出せるようにする。 ・授業において、発展的な例をあげ、様々な理科の現象が、身近に起きていることだと実感させ、興味・関心を引き出す。 ・小学校の理科や中学1年で学んだ内容と2年で学ぶ内容の関連を意識しながら取り組む問題を設定し、問題解決能力、思考力を育成する。 ・アクティブラーニングの手法を取り入れ、「自ら課題を設定・調べる能力」を育成していきたい。したがって、生徒が自主的、かつ発展的に学習できるようグループワークや科学的思考を必要とする探求的活動を行う。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に授業態度は良好で意欲ある生徒が多い。 ・エネルギー変換の例を知らなかった等、生活体験の乏しさは否めない。教科担当としても、そこを埋めていく努力が必要と考える。 ・理科が好きという生徒がおよそ80%である。理科自体が嫌いではないが、今後はグラフの読み取り・計算問題等、筋道を立てて考える力の育成が課題の1つである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、観察などの豊富な体験的学習は授業に臨む積極性を維持するためにも今後も継続して行う。 ・問題演習等も定期的に行い、筆記における基礎知識定着により、ペーパーテスト等による理科に対する苦手意識を克服する。 ・入試問題も解ける学力を保証していけるよう、1年生時の範囲より、入試問題過去問題演習をすすめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「酸・アルカリの性質調べ」等において、自ら実験方法、手段を考え、発想力・想像力の向上を引き出せるようにする。 ・単元に1回程度「調べ学習レポート」等を作成、調べ学習を実施する。 ・アクティブラーニングの手法を取り入れ、「自ら課題を設定・調べる能力」を育成していきたい。 	

音楽

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に参加する生徒が多いため、予め板書してある目標に達することができる。 ・リコーダーが苦手な生徒がやや多いため、基礎的な奏法をしっかり身につけさせたい。 ・授業アンケートの結果では「前向きに授業を受けている」という質問に、95%以上の生徒があげてはまると答えた反面、「音楽は苦手だ」と感じている生徒が3割いる。苦手意識をなくすような授業を行うことが課題である。 ・音楽の授業を通して、生徒の感受性や表現力を更にのばしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱練習では、パートリーダーを中心に目標に達成できるよう練習に取り組みせ、自主的に活動できる時間を設定し更に意欲をもたせたい。その中でもっとうまく表現するにはどうすればよいのかを生徒に考えさせ、発言させる時間を設定する。 ・リコーダーの基礎練習を毎回やり、運指を覚えさせる。また、小テストを実施し個別に指導する。 ・鑑賞は、聴いた感想を書かせるだけでなく、曲について考えさせ発表する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート練習を取り入れ、互いに教え合い学習を進めていけるよう工夫する。 ・昼休みや放課後に指揮者・伴奏者の指導を行う。 ・発展的には、和楽器の実技の前に、レポートの課題を与え、生徒によく考えさせながら調べ学習をさせる。 ・実技や楽典など、苦手な生徒には個別に指導する。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱が好きな生徒が多いが、鑑賞の授業は興味を持ってない生徒が目立つ。普段聴く機会がない、クラシック音楽に興味を持てるような授業を行うことが課題である。 ・指揮の練習では、しっかりと振れる生徒が多い。音楽の授業を通して、生徒の表現力を更にのばしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱練習では、パートリーダーを中心に目標に達成できるよう練習に取り組みせ、自主的に活動できる時間を設定し更に意欲をもたせたい。その中でもっとうまく表現するにはどうすればよいのかを生徒に考えさせ、発言させる時間を設定する。 ・鑑賞は、聴いた感想を書かせるだけでなく、曲について考えさせ発表する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート練習を取り入れ、互いに教え合い学習を進めていけるよう工夫する。 ・昼休みや放課後に指揮者・伴奏者の指導を行う。 ・実技や楽典など苦手な生徒には個別に指導する。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな声量で歌う生徒が多く、授業も大変意欲的に受けている。パート練習などリーダーを中心に自主的に練習に取り組んでいる。 ・音楽鑑賞では、自分が感じたことを言葉で表現することができる生徒が多い。様々な曲を鑑賞することで、生徒の感受性や表現力を更にのばしていきたい。前向きに授業を受けている生徒が多いので、その気持ちを維持し、合唱コンクールや卒業式の合唱練習に取り組ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の合唱コンクールでもあり、全体で一つのものに取り組む大切さをしっかり伝え、個々の意識を高めたい。そのため曲の表現の仕方について生徒に考えさせ、意見を求める。意見を参考にしながら歌わせ、全体の意識を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート練習を取り入れ、互いに教え合い学習を進めていけるよう工夫する。 ・パートリーダー、指揮者、伴奏者を育て、クラス全体の自主性を高める。 ・実技や楽典など、苦手な生徒には個別に指導する。 	

美術

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<ul style="list-style-type: none"> 美術に対する興味や関心があり、作品制作に対する意欲もある。 習得している基本的な技能や知識に差があり、描写することには苦手意識のある生徒が少なくない。 彫塑の課題には積極的に取り組み、新しく学ぶ美術の教科に期待をもっていることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が美術への興味をより高められるように、平面と立体をバランス良くカリキュラムを組む。 基本的な技法を学ぶ時間を十分に設定し、発展的な制作につなげられるよう工夫する。 個別指導を必要とする生徒には机間指導で丁寧にやって見せて、自信をもたせ見通しをもって作品に取り組んでいけるようにする。 過去の生徒の具体的な作品例を見せるなどしてイメージをもたせる。 単純な基礎練習を元に複雑な作業へ移行させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材と関連する様々な技法を学び、今後の作品制作の中に取り入れていくことができるようにする。 鑑賞教材の設定に工夫をする。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ポスターゼーションの授業では、昨年度の基礎学習の上に積み重ねて力をつけていくようにしたい。 授業時間の少ない中でも生徒に自信を持たせる丁寧な指導を心掛けたい。 課題にかかわる用具等の忘れものが少なくないので、意識付けをしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な題材に触れられるように、鑑賞の授業を計画する。 じっくりと作品制作に取り組む時間を確保できるように配慮する。 苦手意識を持つ生徒には、見通しを立てて制作が進むように具体的な作品例や図示を見せるなど重点的に個別指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材と関連した様々な技法を学び、作品制作の中に取り入れていくことができるようにする。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> 美術に対する興味はあり、初めての抽象表現の課題も楽しんで取り組んでいる。 絵画表現に苦手意識をもつ生徒が多いので、段階を踏んで丁寧に指導し、自信をつけさせていきたい。 年間を通して、様々な分野の題材と鑑賞教材を用意し、興味を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な題材に触れられるように鑑賞の授業を計画する。 生徒同士の教え合いも取り入れながら、制作のポイントを提示していく。 作品の進行に合わせて描写の途中経過を実際に見せ、作業への理解を深めていく。 アイデアスケッチや発想の段階を苦手に感じる生徒へは丁寧に指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材と関連した様々な技法を学び、作品制作の中に取り入れていくことができるようにする。 	

保健体育

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の授業アンケートより、85%以上の生徒が保健体育を好きと答えており、各種目への取り組みは全体的に意欲的である。(授業に前向きに参加していると答えた生徒95%) ・整列や挨拶等の授業規律・集団行動が身に付いており、体育委員を中心としてしっかり行動できる。 ・授業内で出された指示に対して、生徒同士でアドバイスし合うことが徐々にできるようになってきた。 ・7月の授業アンケートで、この教科が得意だと答えた生徒は66%にとどまり、好きではあるが運動することに苦手意識をもつ生徒も比較的多い。 ・全ての生徒が、主体的に身体活動に取り組む態度を育成していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力、体力の低い生徒でも意欲をもてるよう、授業のねらい、種目特性を説明し、ゲームの楽しさを感じられるルール作りや場の工夫を行う。 ・引き続き時間厳守を徹底し、チャイム前整列完了を体育委員中心に呼びかけをさせる。 ・技能に応じた練習内容を提示し、運動の仕方を工夫させる。また、生徒同士で相互に教え合い技能向上や目標達成を目指す事が出来るよう話し合いの場を設ける。 ・毎時間の課題を明確に提示し、各種目のねらいを把握させることで運動の合理的な実践の仕方について理解させる。また、T.Tを活用し、細かい配慮ができるようにする。運動技能、体力に合わせて活動内容を分けたり、多くのアドバイスをできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことなど、本来の楽しさを体感できるよう、各種目に関連する様々な動きを準備体操に取り入れる。 ・運動を苦手とする生徒に対しては、個に応じた声掛けやアドバイスをを行うとともに、放課後の時間を利用し、補充指導を行う。 ・運動を得意とする生徒に対しては、より高い目標を設定させ、できた喜びや達成感を味わわせられるようにする。 ・種目に応じて、学習カードを用いて目標、課題、進捗状況を各自で振り返りができるようにする。 ・グループ学習を行い、互いに教え合い学習を進めていけるよう工夫する。 ・保健の授業を通じて、日々の生活に運動を積極的に取り入れ継続することを指導する。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことが好きな生徒が多い。一方で、体格や体力に個人差が大きい。 ・整列や挨拶等の授業規律・集団行動が、体育委員を中心として身に付いてきた。 ・各種目への取り組みは全体的に意欲的である。その反面、苦手意識の強い生徒は消極的である。 ・与えられた指示に対して、生徒同士で教え合うことが徐々にできるようになってきた。 ・体格差による課題の調整や、運動することに苦手意識をもつ生徒に対する目標設定が必要である。 ・全ての生徒が、苦手意識を払拭し、主体的に身体活動に取り組んでいく態度を育成していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力、体力の低い生徒でも意欲をもてるよう、授業のねらい、種目特性を説明し、ゲームの楽しさを感じられるルール作りや場の工夫を行う。 ・時間厳守を徹底し、チャイム前整列完了を体育委員中心に呼びかけをさせる。 ・授業の準備・片付けを全員で協力して行うよう、日頃からチェックしていく。 ・各種目のねらいを把握させ本時の課題を明確に提示する。 ・生徒同士で相互に教え合い技能向上や目標達成を目指す。 ・技能に応じた練習内容を提示し運動の仕方を工夫させる。 ・体力向上について、毎時の授業導入時に種目に応じた補助運動を取り入れていく。 ・T.Tを活用し、細かい配慮ができるようにする。運動技能、体力に合わせて活動内容を分けたり、多くのアドバイスをできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の始めに、ねらいと各種目の特性を説明する。 ・体を動かすことなど、本来の楽しさを体感できるよう、各種目に関連する様々な動きを準備体操に取り入れる。 ・保健の授業を通じて、日々の生活に運動を積極的に取り入れ継続すること指導する。 ・グループ学習により、互いに教え合い学習を進めていけるよう工夫する。 ・運動を苦手とする生徒に対しては、声掛けやアドバイス・放課後の時間を利用し、補充授業を行う。 ・得意とする生徒に対しては、より高い目標を設定させる。 ・種目に応じて、学習カード・資料を用いて目標・課題・進捗状況を各自が確認・振り返りができるようにする。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことが好きな生徒が多く、運動部に所属している生徒も多い。そのため運動に対する関心が強い生徒もいるが、興味を示さなかつたり苦手意識の強い生徒も多くなる。 ・整列や集合等の集団行動が身に付いてきた。 ・各種目への取り組みは全体的に意欲的である。 ・基本的技能が習得されている生徒とされていない生徒が二極化している。そのため運動が得意な生徒・苦手な生徒の意欲の差がある。 ・表現することが苦手な生徒もあり、思ったことを伝えられない場面が見受けられる。 ・技術向上への練習や与えられた練習に対しては意欲的に取り組むが、工夫して課題克服を考える力が弱い。 ・スポーツテストの結果より持久的要素と巧緻性・瞬発力が弱い。持久力、瞬発力を高める補強運動を更に効果的に取り入れていく必要がある。 ・より全ての生徒が、運動への苦手意識をなくし、主体的に身体活動に取り組んでいる態度を育成していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始(集合)終了(片付けを協力して早く)を徹底し、忘れ物、片付けの協力を日ごろからチェックしていく。 ・能力にあった課題や作戦を考えさせ、運動の仕方を工夫させる。 ・生徒同士で相互に教え合い協力させて技能の向上や目標達成を目指す。 ・集団行動においてはグループ分けをし相互評価させる。 ・自己の技能評価と各単元の評価の観点を確認し、自分にあった目標をもたせる。 ・称賛の場面を多くもち生徒を励まし、自己への評価を上げていく。 ・体力向上について、授業の導入部分で様々な補強運動を取り入れていく。 ・種目ごとのねらいをしっかり把握させる。 ・全体のねらいとは別に、個々の課題をはっきりと明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードや資料を用いて進歩の状況や躓きを自分で把握できるようにする。 ・技能習得に時間がかかる生徒には別の練習方法を提示し、体の使い方などを習得させていく。 ・校内の体育的行事は生徒が主体的にかかわれるように企画する。 ・生活の中に積極的に運動を取り入れて継続することを指導する。 ・汗を流すことの爽快感、ゲームの楽しさなど運動がもつ本質的なものを中学校期に体感させていく基礎作りをする。 ・単元の始めにねらいと競技の面白さを説明する。 ・毎回授業の振り返りを行い、学習カードに個々の課題を記入させる。 	

技術

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・技術に対して苦手意識が多い生徒がいる。(小学校時の図工における作業に対するの苦手意識が継続しているように思われる。) ・作業に対しては熱心に取り組むことができる。 ・製図の分野では図形を書く際に物事を考えていく力が十分とは言いきれないが、興味関心をもって作業に取り組むことができている。 ・「技術」という教科に対するの苦手意識、興味関心をもつような授業展開を実施することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製図に関する課題については、課題の提示方法を模写的な授業展開をとりいれながら、立体の書き方になれる段階を経て、様々な課題に挑戦する方策に変更する。 ・作品の例(一般的な例・わるい例)をあらかじめ提示し、作品づくりのポイントを明確にし、視覚的に理解できるよう教材の工夫を行う。 ・工作用紙等副教材を活用し、作業の効率化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期は、作業に遅れる生徒には、補習の時間を設け、作業による遅れの解消に努める。 ・①作業の時間を有効に活用できるように。②計画的に作業ができるようになること。③自分の作業状況を把握できるようにする。以上3つの目的から視覚的に理解できるよう「授業の評価シート」を作成し、活用する。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・技術に対して苦手意識が多い生徒がいる。 ・パソコンの作業に対しては、意欲的に、熱心に取り組むことができる。クラスの中で数人苦手意識をもっている生徒もいる。 ・「技術」という教科に対するの苦手意識、興味関心をもつような授業展開を実施することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階別の課題を設定し、どの作業ができ、どの作業が課題なのかを明確にするプリントを作成する。 ・生物育成についても成長の過程が理解できるプリントを作成する。 ・物事の仕組みや構造等を、視覚的に捉えられる教材の提示を心がけ、授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物事の仕組みを視覚的に捉えられる教材開発や、その現象について、生徒達が考えられる場面を多くする。 ・パソコンの作業に関しては、朝補習等活用し、学習スキルの向上を図る。 ・表計算ソフトの実技に関しては、見本のサンプルが発展的な作業内容に繋がる教材の提示を図る。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・情報(表計算ソフトの取り組み)作業に興味・関心をもって取り組む生徒は多い。 ・「技術」という授業に対して得意と思っている生徒の割合は少ない。しかし、まじめに前向きに取り組もうとしている生徒は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の例(工夫されている例・一般的な例)をあらかじめ提示し、作品づくりのポイントを明確にし、視覚的に理解できるよう教材の工夫を行う。 ・実技テストを実施し、技能の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を製作するだけでなく、①視覚的に見やすい作品の製作の手法、②効率化の向上を目的としたプログラムの入力方法等を理解し、段階的な指導を通じて、自らの作品にオリジナリティを加え、自ら工夫して作品に取り組めるような授業展開をしていく。 	

家庭

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに授業に取り組む生徒が多く、発問に対して挙手をして積極的に答えようとする雰囲気がある。 ・話を聞く態度は、できている。その先に、家庭生活において身につけて欲しい知識や技術の獲得を目指していく。 ・衣生活の単元での手縫いについて、積極的に楽しんで取り組む生徒がいる一方で、苦手意識をもつ生徒もいる。 ・生徒が自らの成長を感じ、家庭生活において実践しようとする意欲を育てることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律、安全管理の意識づけを引き続き行っていく。 ・一人一人の生徒が、学習課題が把握できる発問の工夫を図る。 ・生徒の日常生活と授業内容との間に具体的なつながりを持たせ、普段の生活の中で家庭科の学習内容を意識できるようにする。 ・生徒の苦手意識が解消されるよう丁寧な全体指導・個別指導を心がけ、生徒の理解を助ける。 ・視覚に訴える教材を多く用いることで、授業への理解と関心・意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、日常生活に身近な実物教材を提示する機会を多く設ける。 ・一斉授業、グループ指導、個別指導、どの場面でどの指導方法が適切か見極めながら指導を行う。 ・図や写真などの資料を黒板に貼って提示するほか、ICT機器を活用し、生徒の理解を助ける工夫を行う。実習の説明では静止画と動画を活用する。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに授業に取り組む、発言する生徒がいる一方で、中には集中力を保つのが難しい生徒もいる。生徒の興味関心を引き出す工夫を引き続き行いながら、全体の集中力を高める工夫も行っていく。 ・衣生活の単元での手縫いについて、積極的に楽しんで取り組む生徒がいる一方で、苦手意識をもつ生徒もあり、進度に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律、安全管理の意識づけを引き続き行っていく。 ・一人一人の生徒が、学習課題が把握できる発問の工夫を図る。 ・生徒の日常生活と授業内容との間に具体的なつながりを持たせ、普段の生活の中で家庭科の学習内容を意識できるようにする。 ・生徒の苦手意識が解消されるよう丁寧な全体指導・個別指導を心がけ、生徒の理解を助ける。 ・視覚に訴える教材を多く用いることで、授業への理解と関心・意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、日常生活に身近な実物教材を提示する機会を多く設ける。 ・一斉授業、グループ指導、個別指導、どの場面でどの指導方法が適切か見極めながら指導を行う。 ・図や写真などの資料を黒板に貼って提示するほか、ICT機器を活用し、生徒の理解を助ける工夫を行う。実習の説明では静止画と動画を活用する。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに授業に取り組む姿勢が見られる。また、与えられた課題について真剣に取り組む態度が見られる。 ・話を聞く態度は、できている。その先に、家庭生活において身につけて欲しい知識や技術の獲得を目指していく。 ・発言が活発な生徒も多いため、各クラスに合わせた授業展開を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律、安全管理の意識づけを引き続き行っていく。 ・一人一人の生徒が、学習課題が把握できる発問の工夫を図る。 ・ストーリー性のある授業展開を心掛け、生徒が自分の幼少期を振り返りながらイメージを膨らませやすいように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の幼少期について振り返り、自分をより知るきっかけとする言葉かけをする。 ・一斉授業、グループ指導、個別指導、どの場面でどの指導方法が適切か見極めながら指導を行う。 	

英語

	学習指導の現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証3月 成果と課題
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度より少人数授業となり、生徒が発言する機会が一斉授業よりも増えた。ペアワークやパフォーマンステストもやりやすくなった。 ・学習指導の現状としては、多くの生徒が自覚と意識をもって授業に取り組んでいる。ノート、ワーク、プリントなど、課題の提出率も良い状態が続いている。毎授業始めに、その授業のめあてを板書し、基礎基本のスマールステップを重視した授業を行っている。 ・課題としては、「書くこと」の力をもっと伸ばしてあげたい。 ・1学期末に行った授業アンケートでは、「この教科に力を入れて勉強したい」生徒が90%近くいるのに対し、「得意だ」と答えたのは60%程度しかいないことが分かった。積み重ねの学習が重要な教科なので、前時の復習を取り入れ、「わかった」「できた」を実感させるように授業を進めていきたい。 ・「授業の内容は分かる」が約80%、「前向きに参加している」は90%、また「自分が成長したと思うことがある」では約85%の生徒がそのように回答している。今後も知識だけではなく、使える英語を目指し、「話す」「書く」表現活動を取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法項目等の学習に際しては、常に基礎に立ち返り、丁寧に確認しながら進んでいこうと考えている。また、プリントやワークを活用したりして、言語材料の基礎・基本の定着を図る。 ・AETの授業を中心に、実践的・実用的な対話練習や表現活動を行う。また、活動を評価に結びつけ実技テストを行っていく。 ・授業のねらいを板書し、そのねらいをはっきりさせて生徒が見通しをもてるようにする。 ・新出文法事項導入や教科書本文導入の際に、インタラクティブ(相互的・対話的)な口頭による導入、モデルリーディング、スキットなどを行う。 ・1学期の課題であった「書くこと」の力を伸ばすために、新たにプリントを作成し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートでは、単語や連語を練習するノートづくりをさせ、家庭学習する習慣を身につかせ、積み重ねの学習を支援していく。 ・ペアやクラスの言語活動を取り入れ、英語を得意とする生徒とそうでない生徒間などでの生徒相互の助け合いができる機会をつくる。 ・夏季休業期間中にはスプリングコンテスト(英単語100問テスト)とノート予習を課題とし、基礎の定着を図る。また、到達度試験にも出題する内容を早めに予告し、今後の家庭学習の計画を考える上での参考となるようにする。 ・家庭学習は音読練習、ノート作り(予習・復習)、教科書ワーク、ビンゴ予習を基本とする。 ・中学卒業までには「英語検定3級」に合格できるように働きかけをしていく。 ・今後も継続して働きかけをしていき、英語が苦手な生徒にも前向きに取り組ませるように指導していきたい。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、少人数授業を展開している。 ・1学期終了時のアンケート調査によると、「この教科に力を入れて勉強したい」と答えている生徒は90%近くいるのに対し、英語が得意であると答えている生徒は50%を切っている。「この授業の内容は自分にとってわかる。」と答えている生徒が74%以上おり、到達度試験の点数分布図を見ると約25%の生徒が40点代にとどいていない。試験の点数が40点代に届かない生徒達が授業の内容も難しいと感じていると考えられる。 ・到達度試験で80点以上をとる生徒が56人いる一方で全体の平均点は60点に届いていない。点数分布図を見ると17%の生徒が30点代にもとどいていない。 ・全体的に英語を聞き取る力をもった生徒多い。英語に対してやる気があるが、繰り返しの練習や家庭学習が身につかず、1年生時に基本的な単語や文法が身につけてこなかった生徒が多くみられる現状である。 ・英語を頑張りたいと思っている生徒のやる気を引き出し、試験の点数に結びつくような繰り返しの指導を心がけたい。また、既習の事柄も日々の授業で復習を心がけ、基本の定着をはかりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語と文法の繰り返し学習に重点を置き、レッスンごとにノートの提出と小テストを行い定着を図る。 ・全員教科書が音読できるように指導し、生徒の意欲を継続させる。 ・リスニング活動を毎時間取り入れ、スマールステップで英語の音になれさせる。 ・毎時間、歌とQ&Aを活動と取り入れ、英語に取り組みやすい環境を作る。 ・必ず、授業の初めに、その日の学習のねらいをはっきり示して、学習の見通しをもたせるようにする。 ・少人数授業において、個々の生徒の発言の機会を増やしたり、一人一人の音読テストを取り入れる等、細やかな指導を進めていく。 ・AETを活用し、身につけた英語を使って、話したり、書いたりする表現の機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平常の授業中、板書時間を工夫し、机間指導の時間を増やすなどして、英語の苦手な生徒の支援を授業時間内にできる限りしていく。 ・遅れがちな生徒については、必要に応じて、休み時間等を活用し支援をしていく。 ・音読と単語の練習を家庭学習として定着できるように、宿題のプリントを単元ごとに配布し取り組みを評価する。 ・夏季休業前には、第1回スプリングコンテスト用の単語リストを配布した。休み明けにテストを行い、語彙の定着を図る。頑張ればできるという達成感を味あわせる機会をつくる。 	

<p>3 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学年はクラスごとの一斉授業となったが、ペアワーク、グループワークなどは1年生の頃から引き続き意欲的に取り組んでいる。 ・学習指導の現状としては、3年生になり多くの生徒が自覚と意識をもって授業に臨んでいる。ノート、ワーク、プリントなど、課題の提出率は2年次に比べてよくなっている。昨年度に引き続き、基礎基本のモデルステップを重視した授業を行っている。その1つとして単元テストを行い、その取り組みもとても意欲的になっている。 ・課題としては、到達度テストなどの応用問題に苦手意識をもっている生徒がいる。読解問題や英文を書く力をつけるような授業を展開したい。 ・1学期末に行った授業アンケートでは、「この教科に力を入れて勉強したい」生徒が94%いるのに対し、「得意だ」と答えたのは37%しかいないことが分かった。積み重ねの学習が重要な教科であるので、前時の復習を取り入れ、「わかった」、「できた」を実感させるように授業を進めていきたい。 ・「授業の内容は分かる」が約70%、「前向きに参加している」は90%、また「自分が成長したと思うことがある」では88%の生徒がそのように回答している。今後も知識だけではなく、使える英語を目指し、「話す」、「書く」表現活動を取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法項目等の学習に際しては、常に基礎に立ち返り、丁寧に確認しながら進んでいこうと考えている。また、単元テストに少しずつ応用的な内容を入れていく。プリントやワークを活用したりして、言語材料の基礎・基本の定着を図る。 ・AETの授業を中心に、実践的・実用的な対話練習や表現活動を行う。また、活動を評価に結びつけ実技テストを行っていく。 ・授業のねらいを提示し、生徒が見通しをもてるようにする。 ・新出文法事項導入や教科書本文導入の際に、インタラクティブ(相互的・対話的)な口頭による導入、モデルリーディング、スキットなどを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートでは、既習内容をまとめる授業ノートと、既習で音読ができるようになった英文を書くライティングノートに分けて課している。多い生徒では、1学期間に900文以上英文を書いた生徒もおり、夏休み期間も300文以上書くことを目標にしている。努力した分を関心・意欲の成績にも加味している。 ・ペアやクラスの言語活動を取り入れ、英語を得意とする生徒とそうでない生徒間などでの生徒相互の助け合いができる機会をつくる。 ・夏季休業期間中には3年間のまとめ問題集を課題とし、基礎の定着を図る。また到達度試験にも出題することを予告し、今後の家庭学習の計画を考える上での参考となるようにする。 ・家庭学習は音読練習、ノートまとめ(復習)、教科書ワーク、3年間のまとめワークを基本とする。
--	--	--